

緩和ケア部 初期研修カリキュラム

「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の早期より痛みその他の、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題に関してきちんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることで、クオリティー・オブ・ライフ（生活の質、生命の質）を改善するためのアプローチである。」と WHO で定義されています。主な対象は、末期がんですが、がんだけでなく、コミュニケーションスキル、難しい状況の伝え方、家族と本人への対応など医師として身につけておくべき基本的態度・考え方・技術を緩和ケア部の研修を通して身につけることができます。緩和ケアは、日本人の 3 人に 1 人が癌で死亡するという現在、必要性は益々高くなってきています。しかし、緩和ケアをきちんと学べる場が、極めて限られているのが実状です。自治医科大学附属病院は、大学病院としては数少ない緩和ケア病棟を有するとともに、入院・外来のコンサルト、在宅医との連携を積極的に行っています。症状コントロールを主とした 1 次緩和ケアを身につけるには、緩和ケア病棟で月単位の研修を受けていただくのが、最適です。専門医を目指されるのであれば、当院のような日本緩和医療学会の認定施設で年単位（最低 2 年）の研修を受けていただくことをお勧めします。

定員 同時期に 2 名まで受け入れが可能で、少なくとも 2 ヶ月の研修を希望します。

1. 到達目標の概要

指導医のもとで緩和ケア病棟の入院患者の担当医の一員となり、以下の点を学ぶ。

患者・家族とのコミュニケーション・スキルを身につける。

疼痛コントロールの基本を身につける。

呼吸困難・悪心嘔吐など、疼痛以外の症状緩和を習得する。

不安・うつ・せん妄など心理精神面の症状緩和を習得する。

病状説明における Bad news の伝え方を習得する。

臨死期の対応を身につける。

看護師、薬剤師、臨床心理士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士などとの多職種連携を学ぶ。

地域連携の基本を学ぶ。

2. 対象疾患（緩和ケア病棟の入院患者の場合）

手術、抗がん剤などの積極的治療が困難となった進行した悪性腫瘍

3. 診察，診断，手技

ベッドサイドにおける基本的な診察の習得

Palliative prognostic index などを用いた予後予測

STAS-J による苦痛の評価

検査所見ならびに画像所見の理解

腹水，胸水に対する管理

CV カテーテル留置の習得

皮下注射，皮下補液の習得

4. 治療

疼痛コントロールとしてのオピオイドの適切な使用と副作用対策ができる。

呼吸困難や全身倦怠，悪心嘔吐などに対して適切な症状緩和を行う。

不安，うつ，せん妄などの症状緩和を行う。

適応に沿った鎮静を行う。